

鷺崎地域関係人口増加プロジェクト

法政大学法学部国際政治学科浅見ゼミ鷺崎集落支援チーム

法学部教授 浅見 靖仁

法学部2年 安藤 慶祐

法学部2年 原山 恵介

【プロジェクトの概要】

私たちのゼミは2018年度から海府地区にある鷺崎集落で活動を行ってきました。鷺崎集落は、佐渡島最北端にある海府地区の中心的な集落であり、中世から続く長い歴史を持っています。しかし最近では人口が減り続けており、現在は約60世帯、120人余りが住むだけになっています。鷺崎集落には海府地区にある9つの集落に住む子供たちが通う内海府小学校と内海府中学校がありますが、現在の在校生は小学校、中学校ともにわずか4人で、廃校の危機に瀕しています。

こうした状況に、鷺崎の人たちは強い危機感を抱いており、海府寒ブリ大漁祭を開催したり、地域おこし協力隊を誘致したり、内海府小中学校への離島留学の募集を開始したりするなど、さまざまな取り組みを行っています。

私たちのプロジェクトは、鷺崎の人たちのこうした取り組みを応援し、鷺崎の「関係人口」を増やし、海府地区を活性化させるお手伝いをすることを目的としています。

【関係人口とは？】

内閣府が開設した「地方創生」についてのウェブサイトには以下のように書かれています。

関係人口とは、特定の地域に継続的に多様な形でかかわる人のこと。よく、観光以上移住未満と例えられたりします。具体的には・・・祭りやイベントの運営に参画して楽しむなどファンベースの交流を重ねたりするなど、さまざまです。

(<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/index.html>)

私たちは、自分たち自身の経験からも、農業体験や漁業体験をしたり、地域の様々な行事に参加したりすることによって、住民の方々と触れ合う機会を持てば、島外に住む者にとっても、鷺崎は第2の故郷にしたいと強く感じさせる魅力を持っている地域であることを強く実感しています。

そこで、私たちは、以下の目標を掲げてプロジェクトを行うことにしました。

- (1) まず私たち自身が鷺崎集落の「関係人口」となって、積極的に集落の行事に参加し、地域の人たちが行うイベントを盛り上げ、地域の活気を向上させる。
- (2) 鷺崎での農業体験や漁業体験のすばらしさを周りの大学生に伝え、学生時代だけでなく、卒業後もさまざまな機会に鷺崎を再訪する「関係人口」を増やす。

- (3) 内海府小学校と内海府中学校の先生方と連携して、運動会などのイベントや総合学習の授業に参加し、児童たちと交流し、両校を少人数教育のよさと外部から刺激を受けられる機会の多さを併せ持つ学校とすることをお手伝いする。また両校が今年度から始めた離島留学プログラムの宣伝にも協力する。
- (4) SNS を使って、鷺崎のよさを発信し、周囲の知人、友人だけでなく、広く一般の人たちにも鷺崎に関心を持ってもらう。

【2021 年度の具体的な活動】

9 月までは、新型コロナウイルスのために鷺崎集落を訪問できませんでしたが、訪問できなかった期間も電子メールや LINE を使って、集落の方々や内海府小中学校の先生方と連絡を取り続けていました。

緊急事態宣言が解除された 10 月と 11 月には、訪問する学生全員が PCR 検査を受けて陰性であることを確認した上で、鷺崎集落を訪問して以下の活動を行いました。

①10 月 13 日～17 日（参加学生数：10 人）

10 月 14 日に開催された村祭りに参加して、鬼太鼓を叩いたり、獅子舞の後ろ足を担当したり、翌 15 日には、内海府小学校と内海府中学校を訪問し、総合学習の時間に参加しました。16 日には稲刈りや脱穀の手伝いをしたり、翌日に開催される小中学校の運動会の準備を手伝ったりしました。17 日は、終日内海府小中学校の運動会に参加し、内海府小中学校の生徒や教員の方々や、さらには地域の住民の方々との交流を深めました。また滞在期間中早朝や夕方に漁業体験もしました。

②11 月 18 日～21 日（参加学生数：16 人）

11 月 19 日には内海府小中学校を訪問して、総合学習と体育の授業に参加しました。体育の授業では普段は人数が少なくて行うことができない T ボールを行いました。総合学習の時間は、生徒たちが 1 月に自主研究の成果を地域の住民に対して発表する際に使用するパワーポイントのスライドの使い方についてアドバイスしました。20 日は、集落の方々と一緒に海岸清掃を行ったあと、集落内にある「ふれあいセンター」に集落の方々に集まっていただいて、10 月の訪問時の経験などを踏まえて、私たちが考えた鷺崎集落活性化のための提言を発表しました。21 日は、農道整備や蕎麦の収穫の手伝いをしました。

③1 月 20 日（参加学生数：8 人）

内海府小中学校の生徒たちが、地域の住民たちに対して行った自主研究の成果発表会にオンラインで参加して、生徒たちの発表にコメントをしました。

【今後の活動】

鷺崎の方々とは電子メールや LINE で頻繁に連絡を取り合っており、11 月に私たちが行った提案のいくつかを 2022 年度に実現できる見通しが立ってきました。県道 45 号線沿いに活動拠点を設置して、来年度以降も活動を継続、拡大していきます。